

令和2年度第2回富山県環境審議会 議事録

1 富山県環境審議会の組織・運営等について（副会長の選任）

齋藤会長が楠井委員を第1順位副会長に、加賀谷委員を第2順位副会長に推挙し、異議なく選出された。

2 富山県廃棄物処理計画（とやま廃棄物プラン）の改定について（答申）

廃棄物専門部会での検討結果について、部会長から報告があり、審議が行われた。その結果、専門部会報告のとおり答申することとされた。

【質疑応答】

（会長）

今年か来年くらいには国際的なリサイクル法案・規則が決まり、なるべく色々な無駄をなくし、ごみを分別してリサイクルできるものはリサイクルする形になっていくと思われる。一般廃棄物の循環利用率の目標が27%を28%に上げる1%だけの上昇なので、県の方が説明に来た際にもう少し高くした方が良いのではと申したが、これは最低限の目標ですと言われた。県としてもう少し消費者の協力が必要である。色々なごみを捨てる時でも分別して、捨てる・回収・リサイクルしてクリーンな富山を形成できると思われる。その辺りはどう思うか。

（部会長）

最終年度の数値目標というのは国の基準で設定したものとなっており、先ほど言われたとおり最低基準の数字となっている。更にこれを上回るように様々な施策を打って積極的に推進していくこととしている。

今、特に前向きに取り組んでいる食品ロス・食品廃棄物の削減に関しては、県民会議を立ち上げて3月24日にも第9回目を開催したばかりである。様々な施策も全国に先駆けトップランナーになろうとやっており、それが全国へ波及という形で広がっていけばよいと考えている。お言葉を重く受け止めてこの目標基準を上回るよう努力していきたい。

（会長）

単にクリアではなく、この値を最低限の目標として上回るように実現するという事で、知事に答申したい。

3 富山県環境基本計画の改定について（諮問）

事務局が諮問内容について説明し、審議が行われた。その結果、小委員会を設置して調査審議することとされた。

【質疑応答】

（会長）

2050年カーボンニュートラルで目標とする年度が決められているが、富山県環境

基本計画については目標とする年度はないのか。

(事務局)

現行の環境基本計画は当時の県の総合計画と合わせて10～11年とした。現在は何かと合わせなくてはならないことはなく、他県の状況や国の計画をみると、1番短いものだと5年くらい、国だと6年くらい、他県だと7～10年くらいでまちまちとなっている。今、新とやま温暖化ストップ計画で2030年の目標を掲げているが、必ずそれに合わせる必要はないので周期等も併せてご意見をいただければと思っている。

(会長)

目標年度を決めないといつ達成したのかわからなくないか。

2日前に3省の大臣から「大学でカーボンゼロに取り組んでください」と言われた。それからすると県庁や県の方は一切ないので、県が率先してカーボンゼロに取り組むことを入れた方が良いのではないかと思う。

また、これを達成しようとするなら消費者の、いわゆる県民の方々の協力も必要なので、県民の方々に説明の上ご協力いただき、例えば、プラスチックなどは大きな問題なのでどうするかなど、具体的に書かないと厳しいかと思う。私としては計画性を持ってやった方が良いのではと思う。もちろんこれから小委員会の方で実際をお願いをすることになるが、県としてはどう考えているか。

(事務局)

今のところ何年度という明確なものはないが、現行の計画期間は10年程度だったので、10年前後かという目安は持っている。ただ、具体的にこの年というところまで詰めている状況ではない。

(委員)

氷見市においても、令和3年3月に氷見市の環境基本計画を改定したところである。その中で、国の方で2050年カーボンニュートラルを打ち出しているので、氷見市においても2050年カーボンニュートラルを目指すという表現を使わせていただいたところである。やはり、県の環境基本計画の改定にあたっては国の趣旨を踏まえて、県として打ち出す方向で検討を進めていただければと思う。

(事務局)

ゼロカーボン宣言を行っているので、そういう趣旨はもちろん踏まえた基本計画になっている。また、計画期間をどうするかについては、それぞれ整理して議論を進めていってくださればと思っている。

(会長)

広島大学の例があり、広島大学は、広島市内から東広島市の方へ大学を移転したが、早くから2030年のカーボンゼロを打ち出している。周辺の東広島市の企業にもお願いして再生可能エネルギーを使い、あと10年だが、市と大学が連携してカーボンゼロを達成すると宣言している。このことについて、小泉環境大臣がすごく良い

事例なので是非全国でやってほしいと言っておられた。

今後は、市町村・県・企業・大学・消費者等が連携した形で、官民一体となってやらないといけない大変なことである。それから、毎年の成果は県民の皆さんに報告すれば、これだけCO₂が削減できた、など皆さん実感できると思う。おそらく富山県の皆さんのほとんどは豊かな自然を残したいと望んでいると思う。昔から杉1本ブリ1,000本というように、自然を守ることによって、富山湾の魚介類を守っていることを先人から伝えられてきたことなので、ぜひ達成していただきたいと思う。

消費者団体の代表としていかがか。

(委員)

消費者としてはプラスチックが身近な問題だが、企業側がトレイをなくして、代わりに包装など開発していただいて、消費者が自然とそういうものを買わない状況にすることや、プラのマークが付いていないプラスチックごみは熱エネルギーとして燃やすだけという状況なので、それを再生できるようにすることなど、企業側の努力も大切だと思う。そして、例えば「毎年これだけトレイが削減できた」、「これだけ再生プラを使用できた」など、企業や消費者の努力が目に見える形で数値化して目標としてあげていただければ、とてもありがたい。

(委員)

趣旨・計画の一覧にもある富山県SDGs未来都市計画について、県で想定している都市のサイズはどの程度か。富山圏・高岡圏といった行政圏と一致させるのか、または、行政圏を跨いで、SDGsを主体とした枠組みで考えているのか。

(事務局)

SDGs未来都市については国の内閣府が中心となって、未来的な取組み、特に、環境・社会・経済の3つの取組みを一体的に進められる都市を認定している。

本県についてはすでに県単位でSDGs未来都市選定をいただいている。本県の場合は「環境」を前面に出して未来都市の選定をいただいております、県の計画もすでに持っている状況である。環境基本計画については、この未来都市の計画・あり方などと整合を取りながら作成できればと考えており、是非助言をいただきたい。

(委員)

富山県の特徴を出すSDGsは、17項目の中でもし優先順位をつけるならどの項目か。他の都道府県との違いで目指したいところなど、もしあれば教えてほしい。

(事務局)

SDGs未来都市の担当部局が、県の総合調整を担当する部局にあり、今日は同席していない。環境部局の立場から言えば、県のSDGsの特徴は、「環境」に真摯に取り組んでいること、また、人の気持ちの面でも自然豊かで環境も素晴らしいということが前面に出ているところかと思っている。17項目の中でと言われると難しいところがあるが、環境基本計画の中でもSDGsとの関係性を明確にしていく形になるかと思う。17項目の中でどれを前面に押し出すかは審議の中でご意見をいただきなが

らだと考えている。

(委員)

分野横断的施策で「県民が地域活動をやらなくてはならない、幅広い世帯が参加しなくてはならない」とあるが、こちらの町内では80歳前後が必死になってごみの分別をしている。若い人がいない中でどういう体制を組んでいけばよいか、県としては何か知恵があるか。町単位でリサイクル運動をしているが、町などの単位を取り払ってSDGs用の再編チームを大鉦を振るってやるとか。80代前後が分別をするという状況がどの町内にも遠からず訪れるのではないかと危惧している。今すぐとは言わないが考えていただければと思う。

(会長)

お年寄りも80を過ぎた方だとなかなかごみを片付けられなくなるので、ある程度、若い方が助ける、または係の人が助けるという仕組みづくりもいかがかと思うがどうか。

(事務局)

貴重なご意見だと思う。今までは基本計画ということで大きく書いているということもあると思うが、その時代の情勢に応じて必要なことは掘り下げて検討していかななくてはいけないので、そういったことも入れていきたいと思っている。

(委員)

SDGsの17の目標については、順位があるわけではなく、どれも大事だと自分は理解している。これから環境基本計画の中に取組みを書き込んでいく際には、その取組みがSDGsのどの目標の達成に近づくかをわかりやすくすれば、取組みやすくなると思う。

(委員)

環境基本計画の中の「分野横断的な施策の推進」にある「第6節 持続可能な社会構築に向けた人づくり」で、「幅広い世代が参画する分野横断型の環境教育の推進」とあるが、これについて具体的な案があれば教えていただきたい。

(事務局)

環境の分野だけでも、廃棄物、大気、水環境など、また、カーボンニュートラルのような脱炭素も含め、非常に幅広くなっている。今回は、SDGsという世界的な流れがあり、良い環境をつくと同時に社会や経済の仕組みを同時に解決していくことが大事な視点となろうかと思っている。よって、この横断的という部分は、本当に幅広く扱うことになると考えており、審議の中でぜひ幅広い視点でご意見をいただければと思っている。

(委員)

1つ私が考えている計画を述べさせていただく。気象庁が生物季節観測を全国的に廃止してしまった。50以上ある気象台が同じような項目で生物が示す季節性から、気候変動の進み具合だけでなく、温暖化がどう影響しているかがわかる非常に良い

取組みだったが無くなってしまった。例えばツバメがいつやって来たかということも記録されていたが、これからは無い。これはいいチャンスでもあり、世代を超えて地域の住民が観察して記録していくような取組みが必要ではないかと考えている。振り返るとどのように環境が変化したかを考えられるし、気候変動の進み具合も確認することができる。そのようなことを富山大学でも教育の一環としてやりたいと思っており、県とも情報共有しながら何か一緒にできることがあれば進めていきたい。

(会長)

今後、一般の住民の皆さんの協力を得ながら進めていくということで、非常に良い取組みだと思う。今後計画の中に入れていただければと思う。

先日、居酒屋で稚鮎が出て、今年はちょっと季節が早い、温暖化がかなり進んでいると思った。そういった何気ない情報を取っていくと自然環境の変化がわかると思う。世界中を見て日本海の家温の上昇が1番高い。最近はブリが北海道であがっており、このままいくと氷見にブリがなくなる。そのことから慎重に見ていく必要があると思う。

4 鳥獣保護管理事業計画及び特定管理計画の改定について（諮問）

事務局が諮問内容について説明し、審議が行われた。その結果、野生生物専門部会に付議して調査審議することとされた。

【質疑応答】

(委員)

鳥インフルエンザや豚熱の話があったが、私どもは、技術面など様々な支援をしている立場で、野生鳥獣の管理に関心を高く寄せており、その管理の考え方で尋ねたい。近年ジビエとか、野生鳥獣の管理の観点で、食料だけではなく、ペットフードへの利活用ということで、ずいぶん見方が多様化しているようだ。この鳥獣保護管理事業計画の中には、そういう野生鳥獣の活用という観点的考え方というのは入っているのか。

(事務局)

利活用という観点も当然入っており、特に、猪やニホンジカなどジビエについての項目は入っている。ただ、ペットフードなど、これから活用が期待される部分については、現時点では具体的には書いてはないが、そういった視点も含めて考えていく必要があると思っている。

(委員)

併せて、アフリカ豚熱から地域を守るという観点からも、飼養衛生管理基準、特に餌の加熱処理について、消費者への理解促進も含めて進めているところだが、野生鳥獣の肉の利活用という観点に関しても、衛生面も含めて、しっかり議論いただきたい。

(事務局)

農林水産部と連携して、取り組んでいきたい。

(会長)

ジビエにするときは、やはり生肉等は非常に危険。寄生虫が非常に多い。エキノコックスとかトキソプラズマというような寄生虫がいるため、人獣共通感染症になるので、十分加熱をしていただかないといけない。時々ジビエと言って肉の刺身を食べさせているところがあるが、極めて危険。保健上の管理も併せてお願いしたい。

(委員)

県と協力しながら、鳥獣の様々な調査を行っている。第2種特定鳥獣管理計画の中で要望だが、特に懸念していることはニホンジカの増加である。高山帯への侵入防止について、項目にはあがっているが、具体的にどういう形で取り組むかを是非慎重に議論いただきたい。特に長野とか岐阜とか高山帯を有している地域では、ほとんどシカによって高山植物が壊滅するような状況になっているので、富山県で、立山でそういう状況にならないように是非慎重に議論してもらって、具体的な方針を示していただければと思う。

(事務局)

おっしゃるとおり、最近、高山帯への侵入が確認されている。県も森林管理署もカメラを設置して、どれくらいの個体がいるか確認している。ただ、高山帯となると、捕獲するにしてもどのように捕獲すればよいか、捕獲従事者の方に山まで登っていただく必要もあり、県だけでは限界があるので、森林管理署、環境省も含めて、今後どうやって対策をとっていけばいいか考えていきたい。

(会長)

立山でのニホンザルについても調べていただきたい。ニホンザルがかなり上の方まで上ってきて、ライチョウの幼鳥が餌にされている。立山からライチョウがいなくなったら観光資源が無くなるので、きちんと管理していただきたい。

(委員)

県にお願いだが、環境省の基本指針が9月まで出ないとのことで、それを待っていると間に合わないだろうということで、6月から始めるのは良いことだと思うが、国の部会など、途中の議論についても、できるだけフィードバックしていただければありがたい。

5 富山県水質環境計画の改定について（諮問）

事務局が諮問内容について説明し、審議が行われた。その結果、水環境専門部会に付議して調査審議することとされた。

【質疑応答なし】

6 令和3年度公共用水域及び地下水の水質測定計画について（報告）

水環境専門部会での検討結果について、部会長から報告がなされた。

【質疑応答なし】

【会議全体を通しての意見・質問】

（委員）

経済産業省においては、昨年5月に循環経済ビジョン2020を策定・公表したところである。今後、環境基本計画の改定に際しては、是非こちらのビジョンも参考にしながら議論いただけるとありがたい。

（会長）

各省庁がいろんなことをやっているの、できるだけ適応する形でお願いしたい。

（委員）

再生可能エネルギーの導入に関して、例えば、北日本だと風力発電の計画がかなり多いが、富山県ではどのような計画があるか教えてほしい。

（会長）

具体的にはたぶん無いと思う。ただ、具体的な内容について新田知事にも私からお願いしたことはある。ただ、これはクリアしなければいけない課題が結構あるので、まだ難しいかと思う。富山県は日照時間が1番短いので太陽光は無理。洋上風力についても多くの問題点がある。まず、ヨーロッパのように偏西風がずっと吹かず、風向きが変わりやすいし、台風が来たら羽根が壊れてしまう。もう1つは、洋上風力の機械がほとんどヨーロッパ製または中国製なので、外国に頼らなければならない。

1つの可能性は地熱発電。日本列島の中で1番エネルギーを持っているところは立山と大雪山系の2つ。ただ、どちらも国立公園で開発できない。先日、新田知事が小泉環境大臣とWEBで会議されたときに地熱発電のことも言ってもらったので、もしそこをブレイクスルーできると、立山は水力発電だけでなく地熱発電でクリーンエネルギーを産出でき、まさに神の山となる。本当にクリーンな山になって、自然を守りましょうという富山らしいこともできる。そうするとおそらくヨーロッパからエコツーリズムということでかなりの旅行者が立山に来ることにもつながる。そういったこともあるので何とかしたいと思っている。これは中央官庁のこともあり、企業もつかなくてはいけないので、そこは県としてもビジョンはないと思う。ただプランとして話をしている。

（委員）

再生可能エネルギーの導入に伴って、一方で地域の生物多様性が失われていくという問題も同時に起きている。環境省も規制緩和に動いて最善の導入の方に舵をきったが、生物多様性の保全というのも、SDGsのことからも次世代に残さなければならない。再生可能エネルギーの導入は当然進めなければならないが、地域の生物

多様性の受ける影響を軽減するような方向も議論していくことが大事だと思う。

(会長)

それはおそらく建設が決まった時に調査することになると思う。ただ、県の基幹産業であるアルミ産業は、今のまま再生可能エネルギーを使わないと全部こけてしまう。アルミは1番電気を消費し、CO₂を吐き出しているのだから、再生可能エネルギーを使わないとこれから輸出できなくなる。県の主な産業を守るのか、自然に配慮した形にするのかということになる。

もう1つは安易に原子力発電を認めることになるのもこれもまた問題になる。安全性を確実に担保してもらわないといけない。幸い富山県に原発はないが、志賀の原発から事故等により汚染が生じるとあつという間に富山も汚染される。

そういったこともあるので、本当にこれからは勝負だと思う。自然に配慮しながらも、クリーンなエネルギーを作っていくことがこれからは求められるので、それは皆さんと一緒に考えていかなければならない課題と思う。

(委員)

地熱発電については、現在調査している対象地域では、地熱の熱源である熱水がそれほど多くない。この件は温泉部会の方にも関係があるので今のような議論も含めて注視していきたい。

別件で質問だが、「生活環境の保全」のところに、県の土木部関係で「伏木富山港公害防止対策事業」とあるが、これはどういったものか。廃棄物専門部会で質問した際には、「富岩運河ではないか」ということであつたが、先ほど審議された水質測定計画との関係や、水質環境基準が100%達成しているという話だったので、少ししっくりこない。公害が出ないように何か処置をするのか。内容や水質測定計画との関係を教えてほしい。

(事務局)

おっしゃるとおり富岩運河のダイオキシン対策に関係する経費とだけ思っていたらと思う。これについては、現在、中島閘門よりも上流の部分で工事を進めている。必要な部分を一部浚渫で取り除き、そのあと覆砂して汚染した底質を覆うというような形で工事を進めている。その効果もあるのかもしれないが水質環境基準を達成しているという状況。

(委員)

基本は浚渫か。

(事務局)

浚渫よりも、覆砂。どうしても水深が低いところに一部浚渫はあるが、原則的には覆砂で汚染土を封じ込めるという形をとっている。本来は県の土木部が所管するが、本日は同席していないため、こちらの方から答えさせていただいた。